

ドキシペップ（Doxy-PEP）による性感染症予防

新しいSTI曝露後予防（Post-Exposure Prophylaxis）の概要

ドキシペップとは？

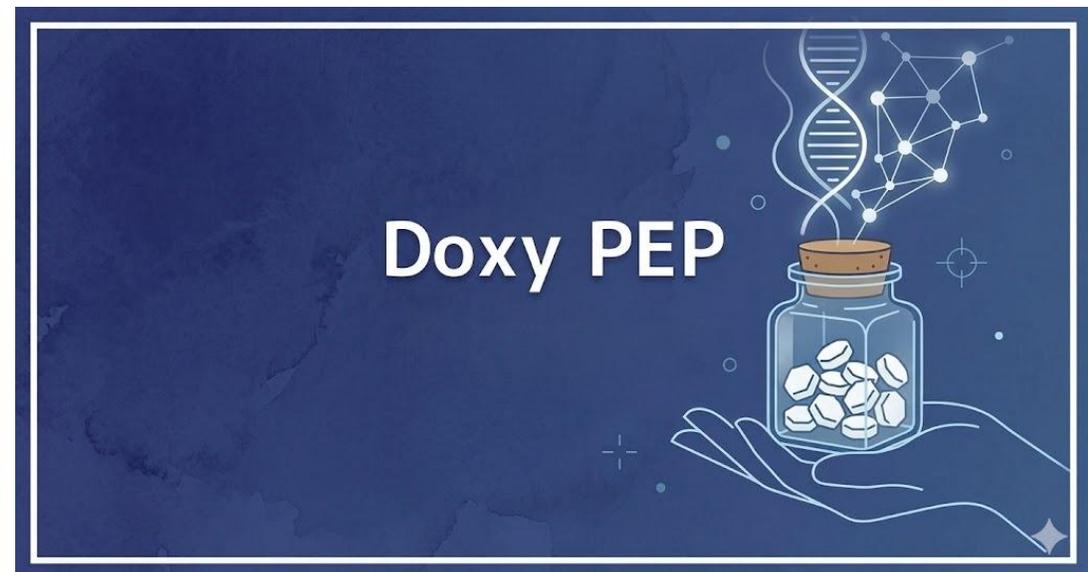
ドキシペップとは？

正式名称：

ドキシサイクリン曝露後予防

概要： 性行為の後に抗生物質（ドキシサイクリン）を服用し、感染症の発症を防ぐ手法。

背景： 欧米の臨床試験で高い予防効果が確認され、米国CDC等でもガイドラインが策定されている注目の予防策。



予防の対象となる疾患

予防の対象となる疾患

主なターゲット（細菌性STI）：

梅毒：予防効果あり

クラミジア：予防効果あり

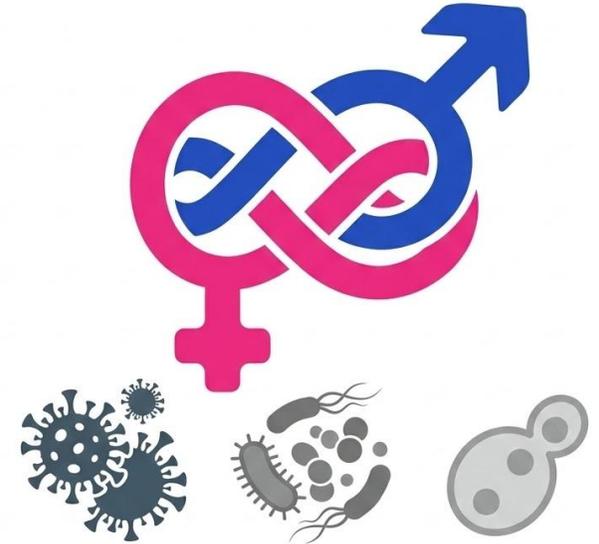
淋病：一定の効果

（耐性菌により地域差あり）

注意事項：

HIV、ヘルペス、B型肝炎などの
ウイルス性疾患には無効。

マイコプラズマ等への効果は限定的。



服用方法（一般的なプロトコル）

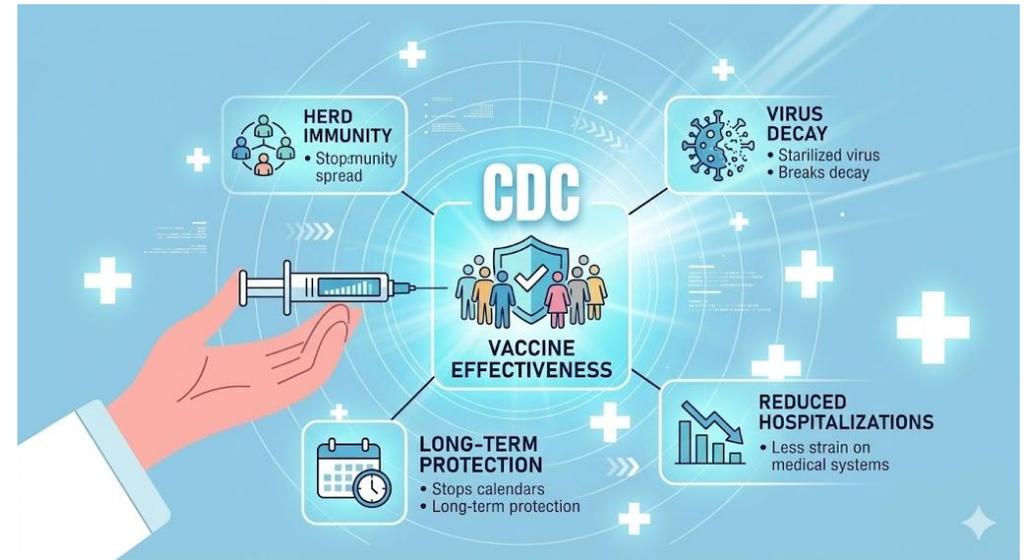
服用方法（一般的なプロトコル）

米国のCDC（疾病対策センター）などのガイドラインで示されている一般的な服用法は以下の通りです。

タイミング：コンドームを使用しない等のリスクがある性行為の後、**24時間以内（遅くとも72時間以内）**に服用します。

用量：ドキシサイクリン200mgを1回服用します。

頻度：24時間に1回を上限とすることが推奨されています。



期待できる効果とメリット

感染率の低下：

臨床研究では、梅毒・クラミジアの感染リスクを減少させた報告がある。

公衆衛生上の利点：

無症状のうちに病原体を叩くことで、パートナーへの二次感染を防止する。

心理的安心感：

リスクの高い接触があった際のセカンドラインとしての役割。



留意点とリスク（副作用・耐性菌）

留意点とリスク（副作用・耐性菌）

主な副作用：

- 消化器症状（腹痛、下痢、吐き気）
- 光線過敏症（日光による皮膚の炎症）
- 食道炎（服用後すぐに横にならないこと）

懸念事項：

- **薬剤耐性菌の出現**： 頻繁な使用により、将来的に薬が効かなくなるリスク。**腸内フローラへの影響**： 長期・頻回な服用による体内の細菌バランスの変化。

まとめ・推奨事項

医師の指導の下で利用：

国内では自費診療での処方が一般的。

当院では診察で5000円です

※定期的なSTI検査：

予防薬を過信せず、
3～6ヶ月ごとの検査を併用する。

コンビネーション予防：

コンドームの使用が有効

